

教科 No.	6a081	授業科目	音楽学特講 a：地球文明時代の音楽－世界の芸術音楽の比較文化的考察	単位数	2単位																
担当教員	龍村あや子（音楽研究室2）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上（音楽学専攻1回生以上）★備考必読																	
<p><b>【授業目標】</b> 19世紀ロマン主義の時代・社会における音楽のあり方と思想，特に交響曲の表現と形式の理解を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> 19世紀ロマン主義において音楽はどのように捉えられ，発展したか。交響曲の理念・内容・形式とその変遷を追いながら考える。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 古典派とロマン派はひとつの大きな時代である。では何が歴史的に変化したのか。</td> <td>9. サンサーンスはなぜ交響曲にオルガンを取り入れたのか。</td> </tr> <tr> <td>2. ロマン主義思想の始まり－文学上の初期ロマン派とその音楽思想</td> <td>10. プラームスはなぜロマン派の中の古典主義といわれるのか。</td> </tr> <tr> <td>3. シューベルトのロ短調交響曲第一楽章は何を表現しようとしているのか</td> <td>11. チャイコフスキーの交響曲第6番の中心はどこにあるのか。</td> </tr> <tr> <td>4. シューベルト，シューマン，メンデルスゾーンは交響曲をどのように捉えたか。</td> <td>12. 19世紀交響曲における「メロディーの力」</td> </tr> <tr> <td>5. ベルリオーズの《幻想》とその影響</td> <td>13. 19世紀交響曲の楽章構成と「スケルツォ」</td> </tr> <tr> <td>6. ロマン主義思想の歴史の変遷をめぐって</td> <td>14. マーラーの交響曲－ロマン主義最後の表現</td> </tr> <tr> <td>7. 交響曲における民族主義－北欧，東欧の諸作品</td> <td>15. マーラーの交響曲第9番</td> </tr> <tr> <td>8. ワグナーのバイロイト楽劇の全ヨーロッパへの影響</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 学期末に提出するレポートと，普段の履修態度，出席を考慮して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 出席を重視する。</p> <p><b>【教科書】</b> 特に指定しない。</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業中に紹介する。</p> <p>「音楽美学2」と同時開講。「音楽美学2」を未履修の者は，「音楽美学2」として履修すること。 音楽学特講は毎年授業内容が変わるので，重複履修が可能である。但し，音楽学特講義 e を除く。 備考 ★聴講を希望する音楽学専攻以外の1回生は担当教員の許可を得ること。</p>						1. 古典派とロマン派はひとつの大きな時代である。では何が歴史的に変化したのか。	9. サンサーンスはなぜ交響曲にオルガンを取り入れたのか。	2. ロマン主義思想の始まり－文学上の初期ロマン派とその音楽思想	10. プラームスはなぜロマン派の中の古典主義といわれるのか。	3. シューベルトのロ短調交響曲第一楽章は何を表現しようとしているのか	11. チャイコフスキーの交響曲第6番の中心はどこにあるのか。	4. シューベルト，シューマン，メンデルスゾーンは交響曲をどのように捉えたか。	12. 19世紀交響曲における「メロディーの力」	5. ベルリオーズの《幻想》とその影響	13. 19世紀交響曲の楽章構成と「スケルツォ」	6. ロマン主義思想の歴史の変遷をめぐって	14. マーラーの交響曲－ロマン主義最後の表現	7. 交響曲における民族主義－北欧，東欧の諸作品	15. マーラーの交響曲第9番	8. ワグナーのバイロイト楽劇の全ヨーロッパへの影響	
1. 古典派とロマン派はひとつの大きな時代である。では何が歴史的に変化したのか。	9. サンサーンスはなぜ交響曲にオルガンを取り入れたのか。																				
2. ロマン主義思想の始まり－文学上の初期ロマン派とその音楽思想	10. プラームスはなぜロマン派の中の古典主義といわれるのか。																				
3. シューベルトのロ短調交響曲第一楽章は何を表現しようとしているのか	11. チャイコフスキーの交響曲第6番の中心はどこにあるのか。																				
4. シューベルト，シューマン，メンデルスゾーンは交響曲をどのように捉えたか。	12. 19世紀交響曲における「メロディーの力」																				
5. ベルリオーズの《幻想》とその影響	13. 19世紀交響曲の楽章構成と「スケルツォ」																				
6. ロマン主義思想の歴史の変遷をめぐって	14. マーラーの交響曲－ロマン主義最後の表現																				
7. 交響曲における民族主義－北欧，東欧の諸作品	15. マーラーの交響曲第9番																				
8. ワグナーのバイロイト楽劇の全ヨーロッパへの影響																					

教科 No.	6a082	授業科目	音楽学特講 b：地球文明時代の音楽2－ヨーロッパとイスラーム	単位数	2単位																
担当教員	龍村あや子（音楽研究室2）			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上（音楽学専攻1回生以上）★備考必読																	
<p><b>【授業目標】</b> 世界がひとつの運命共同体として生きるべき時代に必要な音楽学的思考を学ぶ。</p> <p><b>【授業概要】</b> ヨーロッパ，アメリカの文化とイスラーム文化を音楽・芸術を通して学ぶ</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 地球は一つの星であり，自然環境を共有し，社会的にも全世界は共同体であることの認識を得る。</td> <td>9. スペインの歴史と音楽1</td> </tr> <tr> <td>2. 9.11以降の対立の構図をどう考えるか。音楽には何が出来るか。</td> <td>10. スペインの歴史と音楽2</td> </tr> <tr> <td>3. 人間の自然観，信仰と音楽の多様性について</td> <td>11. アフリカの文化と音楽1</td> </tr> <tr> <td>4. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察1</td> <td>12. アフリカの文化と音楽2</td> </tr> <tr> <td>5. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察2</td> <td>13. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化1</td> </tr> <tr> <td>6. 現代におけるイスラーム文化圏の広がり</td> <td>14. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化2</td> </tr> <tr> <td>7. イスラーム文化圏の音楽の多様性1</td> <td>15. 人間にとって芸術とは何か</td> </tr> <tr> <td>8. イスラーム文化圏の音楽の多様性2</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 毎回書いてもらう小レポート（感想・意見・質問など）と，期末レポート，出席及び授業態度の総合評価による。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 出席を重視する。</p> <p><b>【教科書】</b> 特に指定しないが，下記に挙げた参考文献を読んでおくことが望ましい。」</p> <p><b>【参考書等】</b> 龍村あや子著：「地球文明時代の芸術－音楽と＜自然＞と信仰の問題を考える」『地球時代の文明学』京都通信社所収「21世紀の音楽と文明を考える」『比較文明』（比較文明学会機関誌）第21号所収。「パン・アフリカン・ミュージックと現代の音楽文化」『諸民族の音楽を学ぶ人のために』世界思想社所収</p> <p>備考 音楽学特講は毎年授業内容が変わるので，重複履修が可能である。但し，音楽学特講義 e を除く。 ★聴講を希望する音楽学専攻以外の1回生は担当教員の許可を得ること。</p>						1. 地球は一つの星であり，自然環境を共有し，社会的にも全世界は共同体であることの認識を得る。	9. スペインの歴史と音楽1	2. 9.11以降の対立の構図をどう考えるか。音楽には何が出来るか。	10. スペインの歴史と音楽2	3. 人間の自然観，信仰と音楽の多様性について	11. アフリカの文化と音楽1	4. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察1	12. アフリカの文化と音楽2	5. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察2	13. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化1	6. 現代におけるイスラーム文化圏の広がり	14. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化2	7. イスラーム文化圏の音楽の多様性1	15. 人間にとって芸術とは何か	8. イスラーム文化圏の音楽の多様性2	
1. 地球は一つの星であり，自然環境を共有し，社会的にも全世界は共同体であることの認識を得る。	9. スペインの歴史と音楽1																				
2. 9.11以降の対立の構図をどう考えるか。音楽には何が出来るか。	10. スペインの歴史と音楽2																				
3. 人間の自然観，信仰と音楽の多様性について	11. アフリカの文化と音楽1																				
4. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察1	12. アフリカの文化と音楽2																				
5. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察2	13. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化1																				
6. 現代におけるイスラーム文化圏の広がり	14. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化2																				
7. イスラーム文化圏の音楽の多様性1	15. 人間にとって芸術とは何か																				
8. イスラーム文化圏の音楽の多様性2																					

教科 No.	6a083	授業科目	音楽学特講 c : 一音の生態学一		単位数	2単位																
担当教員	津崎 実 (音楽研究室 4)				開講学期	集中 (前期)																
履修条件	京都駅前のカンパスプラザで受講 ★備考必読		履修学年・専攻等	2回生以上 (音楽学専攻は 1 回生以上)																		
<p><b>【授業目標】</b> 音は音楽のためだけにあるものではありません。それを理解することを通して、これまで当然のことのように享受していた音の素晴らしさに気が付いてほしいと思います。</p> <p><b>【授業概要】</b> 多くの音楽にとって音の存在は前提となっています。これは音楽が音を素材として生まれた、つまり音の存在の方が音楽よりも原始的な段階から備わっていたことを意味します。この原始的な意味での音、つまり我々の生態系の中における音の役割について解説していきます。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 音の伝えるもの</td> <td>9. 共振と素材, 形状, 寸法</td> </tr> <tr> <td>2. 視覚情報と聴覚情報の違い</td> <td>10. インパルス応答と周期的駆動</td> </tr> <tr> <td>3. オブジェクトとイベント</td> <td>11. 周期性の正規化とピッチ知覚</td> </tr> <tr> <td>4. 聴覚は振動検知から</td> <td>12. ピッチの違いと音源の違い</td> </tr> <tr> <td>5. ものの振動の仕組み</td> <td>13. 音環境の特質</td> </tr> <tr> <td>6. 聴覚器の構成</td> <td>14. 音の根源から見たときの音楽論</td> </tr> <tr> <td>7. 周波数とものの性質</td> <td>15. 異空間での音楽</td> </tr> <tr> <td>8. 共振</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 最終日に実施する試験 (出席点はありません)</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 音楽以外の領域における音の役割を見ることがまず重点となります。</p> <p><b>【教科書】</b> 特になし</p> <p><b>【参考書等】</b> 乾編, 認知心理学 1 「知覚と運動」, (1995) 東大出版会</p> <p>備考 「音楽音響学」「音楽心理学」の履修者が望ましい。但し, 音楽学専攻は上記の例外とする。</p> <p>音楽学特講は毎年授業内容が変わるので, 重複履修が可能である。但し, 音楽学特講 e を除く。 ★ 2009 年度プラザ科目として出講した音楽学特講 c を履修したものは重複になるので履修不可。</p>							1. 音の伝えるもの	9. 共振と素材, 形状, 寸法	2. 視覚情報と聴覚情報の違い	10. インパルス応答と周期的駆動	3. オブジェクトとイベント	11. 周期性の正規化とピッチ知覚	4. 聴覚は振動検知から	12. ピッチの違いと音源の違い	5. ものの振動の仕組み	13. 音環境の特質	6. 聴覚器の構成	14. 音の根源から見たときの音楽論	7. 周波数とものの性質	15. 異空間での音楽	8. 共振	
1. 音の伝えるもの	9. 共振と素材, 形状, 寸法																					
2. 視覚情報と聴覚情報の違い	10. インパルス応答と周期的駆動																					
3. オブジェクトとイベント	11. 周期性の正規化とピッチ知覚																					
4. 聴覚は振動検知から	12. ピッチの違いと音源の違い																					
5. ものの振動の仕組み	13. 音環境の特質																					
6. 聴覚器の構成	14. 音の根源から見たときの音楽論																					
7. 周波数とものの性質	15. 異空間での音楽																					
8. 共振																						

教科 No.	6a084	授業科目	音楽学特講 d		単位数	2単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上 (音楽学専攻は 1 回生以上)		
<h1>今年度休講</h1>						

教科 No.	6a085	授業科目	音楽学特講 e：ミサ曲テキストに見るプロテスタント思想	単位数	2単位																
担当教員	山本 毅（音楽棟207）			開講学期	前期																
履修条件	★備考必読		履修学年・専攻等	2回生以上（音楽学専攻は1回生以上）																	
<p><b>【授業目標】</b> ミサ曲のテキストの意味内容を理解し、背景にある神学とそれを演奏するプロテスタントキリスト教徒の宗教的感情を知る。</p> <p><b>【授業概要】</b> ミサ曲の歌詞の意味を辞書で調べることは簡単です。しかし、その背景にある思想や感情を知ることなくそのことばを理解したとはいえません。聖書的・神学的背景を知らなくてはなりません。演奏法も当然そこに土台があります。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. キリスト教とプロテスタント教会音楽、ミサ曲概説</td> <td>9. Quoniam tu solus sanctus（汝の望みなれば）</td> </tr> <tr> <td>2. Kylie（主よ憐れみたまえ）</td> <td>10. Cum Sancto Spiritu（聖霊とともに）</td> </tr> <tr> <td>3. Gloria in excelsis Deo Et in terra pax（いと高きところにいます神に栄光あれ地には平和あれ）</td> <td>11. Credo in unum Deum（われは信ず、唯一なる神を）</td> </tr> <tr> <td>4. Laudalms te（われら汝を讃え）</td> <td>12. Sanctus（聖なるかな）</td> </tr> <tr> <td>5. Gratias agimus tibi（感謝し奉る）</td> <td>13. Osanna in excelsis（いと高きところにオザンナ）</td> </tr> <tr> <td>6. Domine Deus（主なる神）</td> <td>14. Agnus Dei（神の子羊）</td> </tr> <tr> <td>7. Qui tollis peccata mundi（世の罪を除きたもう者よ）</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Qui sedes ad dextram Patris（父の右に座したもう者よ）</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 毎回の授業での小テストによる平常点，出席点による</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 毎授業時，楽譜を持参することが望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b> 授業で配布</p> <p><b>【参考書等】</b> バツハ・ロ短調ミサの楽譜（スコア・ヴォーカルスコアどちらでも可。ペーレンライター版が望ましい。）</p> <p>※備考 後期開講科目「音楽学特講 f：マタイ受難曲テキストに見るプロテスタント思想」はこの授業の続編となります。</p> <p>★音楽学特講 e を一度履修済みの者は再履修は不可</p>						1. キリスト教とプロテスタント教会音楽、ミサ曲概説	9. Quoniam tu solus sanctus（汝の望みなれば）	2. Kylie（主よ憐れみたまえ）	10. Cum Sancto Spiritu（聖霊とともに）	3. Gloria in excelsis Deo Et in terra pax（いと高きところにいます神に栄光あれ地には平和あれ）	11. Credo in unum Deum（われは信ず、唯一なる神を）	4. Laudalms te（われら汝を讃え）	12. Sanctus（聖なるかな）	5. Gratias agimus tibi（感謝し奉る）	13. Osanna in excelsis（いと高きところにオザンナ）	6. Domine Deus（主なる神）	14. Agnus Dei（神の子羊）	7. Qui tollis peccata mundi（世の罪を除きたもう者よ）	15. まとめ	8. Qui sedes ad dextram Patris（父の右に座したもう者よ）	
1. キリスト教とプロテスタント教会音楽、ミサ曲概説	9. Quoniam tu solus sanctus（汝の望みなれば）																				
2. Kylie（主よ憐れみたまえ）	10. Cum Sancto Spiritu（聖霊とともに）																				
3. Gloria in excelsis Deo Et in terra pax（いと高きところにいます神に栄光あれ地には平和あれ）	11. Credo in unum Deum（われは信ず、唯一なる神を）																				
4. Laudalms te（われら汝を讃え）	12. Sanctus（聖なるかな）																				
5. Gratias agimus tibi（感謝し奉る）	13. Osanna in excelsis（いと高きところにオザンナ）																				
6. Domine Deus（主なる神）	14. Agnus Dei（神の子羊）																				
7. Qui tollis peccata mundi（世の罪を除きたもう者よ）	15. まとめ																				
8. Qui sedes ad dextram Patris（父の右に座したもう者よ）																					

教科 No.	6a086	授業科目	音楽学特講 f：ヨハネ受難曲テキストに見るプロテスタント思想	単位数	2単位																
担当教員	山本 毅（音楽棟207）			開講学期	後期																
履修条件	なし、ただし前期「音楽学特講 e」の受講後が望ましい。		履修学年・専攻等	2回生以上（音楽学専攻は1回生以上）																	
<p><b>【授業目標】</b> ヨハネ受難曲のテキストの意味内容を理解し、背景にある神学とそれを演奏するキリスト教徒の内心にある宗教的感情を知る。</p> <p><b>【授業概要】</b> ヨハネ受難曲のテキストはキリスト教神学の中心的なテーマである十字架の死を扱っている。テキストの背景にある神学，思想，そこから導き出される宗教的感情を学び、それが音楽でどう表現されているかを研究する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入 キリスト教とプロテスタント教会音楽、受難曲概説</td> <td>9. 判決と十字架 2</td> </tr> <tr> <td>2. 裏切りと捕縛 1</td> <td>10. 判決と十字架 3</td> </tr> <tr> <td>3. 裏切りと捕縛 2</td> <td>11. イエスの死 1</td> </tr> <tr> <td>4. 否認 1</td> <td>12. イエスの死 2</td> </tr> <tr> <td>5. 否認 2</td> <td>13. イエスの死 3</td> </tr> <tr> <td>6. 審問と鞭打 1</td> <td>14. 埋葬</td> </tr> <tr> <td>7. 審問と鞭打 2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 判決と十字架 1</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 毎回の授業での小テストによる平常点，出席点による</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 毎授業時，楽譜を持参することが望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b> 授業で配布</p> <p><b>【参考書等】</b> バツハ・ヨハネ受難曲の楽譜（スコア・ヴォーカルスコアどちらでも可 ペーレンライター版が望ましい）</p> <p>※備考 前期開講科目「音楽学特講 e：ミサ曲テキストに見るプロテスタント思想」の続編となる。</p> <p>音楽学特講は毎年授業内容が変わるので、重複履修が可能である。但し、音楽学特講 e を除く。</p>						1. 導入 キリスト教とプロテスタント教会音楽、受難曲概説	9. 判決と十字架 2	2. 裏切りと捕縛 1	10. 判決と十字架 3	3. 裏切りと捕縛 2	11. イエスの死 1	4. 否認 1	12. イエスの死 2	5. 否認 2	13. イエスの死 3	6. 審問と鞭打 1	14. 埋葬	7. 審問と鞭打 2	15. まとめ	8. 判決と十字架 1	
1. 導入 キリスト教とプロテスタント教会音楽、受難曲概説	9. 判決と十字架 2																				
2. 裏切りと捕縛 1	10. 判決と十字架 3																				
3. 裏切りと捕縛 2	11. イエスの死 1																				
4. 否認 1	12. イエスの死 2																				
5. 否認 2	13. イエスの死 3																				
6. 審問と鞭打 1	14. 埋葬																				
7. 審問と鞭打 2	15. まとめ																				
8. 判決と十字架 1																					

教科 No.	6a087	授業科目	音楽学特講 g	単位数	2単位																
担当教員	三島 郁 (非常勤)			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2 回生以上 (音楽学専攻は 1 回生以上)																	
<p><b>【授業目標】</b> 西洋芸術音楽において演奏は「歴史的」である。現在の演奏スタイルも現在趣味と判断によるものであることを認識し、創造的な演奏がいかにあるべきかを考える。</p> <p><b>【授業概要】</b> 本講義では、複数の記譜方法をもつ楽譜の記譜法、理論書・実践書の歴史的史料などにおける演奏に関する記述、録音の比較等から、演奏スタイルの変化や記譜法と演奏の関係进行分析、考察する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 演奏における歴史</td> <td>9. 複数「版」の記譜と演奏 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 演奏スタイルの変化 (1): バッハ作品</td> <td>10. 記譜方法と演奏 (1): 記譜された即興</td> </tr> <tr> <td>3. 演奏スタイルの変化 (2): モーツァルト作品</td> <td>11. 記譜方法と演奏 (2): 奏者が加える演奏慣習</td> </tr> <tr> <td>4. 演奏スタイルの変化 (3): 19 世紀の作品</td> <td>12. 記譜方法と演奏 (3): 通奏低音の実践と作曲行為</td> </tr> <tr> <td>5. 19 世紀の奏法 (1): ヴィブラートとポルタメント</td> <td>13. 記譜方法と演奏 (4): 「手で」知覚する楽譜</td> </tr> <tr> <td>6. 19 世紀の奏法 (2): テンポ設定とルバート</td> <td>14. 「歴史的」演奏</td> </tr> <tr> <td>7. 19 世紀の奏法 (3): 音価の解釈</td> <td>15. 「オーセンティック」な演奏と創造的な演奏</td> </tr> <tr> <td>8. 複数「版」の記譜と演奏 (1)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 学期末のレポート, 平常点, 出席点</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b> 授業内で資料を配布</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業内で紹介</p> <p>※備考 音楽学特講は毎年授業内容が変わるので、重複履修が可能である。但し、音楽学特講 e を除く。</p>						1. 演奏における歴史	9. 複数「版」の記譜と演奏 (2)	2. 演奏スタイルの変化 (1): バッハ作品	10. 記譜方法と演奏 (1): 記譜された即興	3. 演奏スタイルの変化 (2): モーツァルト作品	11. 記譜方法と演奏 (2): 奏者が加える演奏慣習	4. 演奏スタイルの変化 (3): 19 世紀の作品	12. 記譜方法と演奏 (3): 通奏低音の実践と作曲行為	5. 19 世紀の奏法 (1): ヴィブラートとポルタメント	13. 記譜方法と演奏 (4): 「手で」知覚する楽譜	6. 19 世紀の奏法 (2): テンポ設定とルバート	14. 「歴史的」演奏	7. 19 世紀の奏法 (3): 音価の解釈	15. 「オーセンティック」な演奏と創造的な演奏	8. 複数「版」の記譜と演奏 (1)	
1. 演奏における歴史	9. 複数「版」の記譜と演奏 (2)																				
2. 演奏スタイルの変化 (1): バッハ作品	10. 記譜方法と演奏 (1): 記譜された即興																				
3. 演奏スタイルの変化 (2): モーツァルト作品	11. 記譜方法と演奏 (2): 奏者が加える演奏慣習																				
4. 演奏スタイルの変化 (3): 19 世紀の作品	12. 記譜方法と演奏 (3): 通奏低音の実践と作曲行為																				
5. 19 世紀の奏法 (1): ヴィブラートとポルタメント	13. 記譜方法と演奏 (4): 「手で」知覚する楽譜																				
6. 19 世紀の奏法 (2): テンポ設定とルバート	14. 「歴史的」演奏																				
7. 19 世紀の奏法 (3): 音価の解釈	15. 「オーセンティック」な演奏と創造的な演奏																				
8. 複数「版」の記譜と演奏 (1)																					

教科 No.	6a088	授業科目	音楽学特講 h	単位数	2単位																
担当教員	山田智恵子 (日本伝統音楽研究センター)			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2 回生以上 (音楽学専攻は 1 回生以上)																	
<p><b>【授業目標】</b> 義太夫節の音楽としてのしぐみを理解する一文楽をより深く鑑賞するために</p> <p><b>【授業概要】</b> 人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節は、近年まで多くの人々にとって身近な音楽であった。この講義では、音楽としての義太夫節にスポットをあて、全員でテキストを音読した後、実際の演奏を聴く。一つ一つの言葉がいかに巧みに音の世界で表現されているかを理解し、文楽を耳からも楽しめるようになることを目指す。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業ガイダンス・文楽とは何か</td> <td>9. 「鮎屋の段」その 3</td> </tr> <tr> <td>2. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その 1 地合とは何か</td> <td>10. 「鮎屋の段」その 4</td> </tr> <tr> <td>3. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その 2 一曲の構成</td> <td>11. 義経千本桜四段目「道行初音旅」その 1</td> </tr> <tr> <td>4. 義経千本桜二段目切「渡海屋の段」その 1</td> <td>12. 「道行初音旅」その 2</td> </tr> <tr> <td>5. 「渡海屋の段」その 2</td> <td>13. 「道行初音旅」その 3</td> </tr> <tr> <td>6. 「渡海屋の段」その 3</td> <td>14. 人形浄瑠璃文楽として目と耳から楽しむ</td> </tr> <tr> <td>7. 義経千本桜三段目切「鮎屋の段」その 1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「鮎屋の段」その 2</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> レポート</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 出席重視</p> <p><b>【教科書】</b> なし (配布資料)</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業中に関連参考書を指示</p> <p>※備考 音楽学特講は毎年授業内容が変わるので、重複履修が可能である。但し、音楽学特講 e を除く。</p>						1. 授業ガイダンス・文楽とは何か	9. 「鮎屋の段」その 3	2. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その 1 地合とは何か	10. 「鮎屋の段」その 4	3. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その 2 一曲の構成	11. 義経千本桜四段目「道行初音旅」その 1	4. 義経千本桜二段目切「渡海屋の段」その 1	12. 「道行初音旅」その 2	5. 「渡海屋の段」その 2	13. 「道行初音旅」その 3	6. 「渡海屋の段」その 3	14. 人形浄瑠璃文楽として目と耳から楽しむ	7. 義経千本桜三段目切「鮎屋の段」その 1	15. まとめ	8. 「鮎屋の段」その 2	
1. 授業ガイダンス・文楽とは何か	9. 「鮎屋の段」その 3																				
2. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その 1 地合とは何か	10. 「鮎屋の段」その 4																				
3. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その 2 一曲の構成	11. 義経千本桜四段目「道行初音旅」その 1																				
4. 義経千本桜二段目切「渡海屋の段」その 1	12. 「道行初音旅」その 2																				
5. 「渡海屋の段」その 2	13. 「道行初音旅」その 3																				
6. 「渡海屋の段」その 3	14. 人形浄瑠璃文楽として目と耳から楽しむ																				
7. 義経千本桜三段目切「鮎屋の段」その 1	15. まとめ																				
8. 「鮎屋の段」その 2																					

教科 No.	6a091	授業科目	音楽学演習 a 1		単位数	1単位																
担当教員	藤島啓子（非常勤）				開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上(音楽学専攻は1回生以上)																		
<p><b>【授業目標】</b> 20世紀の西洋音楽に於いて革新的な表現、手法を用いた音楽家の作品を解説し、演奏出来るようにする事</p> <p><b>【授業概要】</b> 下記に取り上げた実験的な音楽を書いた作曲家の作品を試演してみる。五線譜以外の記譜法も取り上げる。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. Steve Reich (スティーブ・ライヒ) 1</td> <td>9. Frederic Rzewski (フレデリック・ジェフスキー) 1</td> </tr> <tr> <td>2. Steve Reich (スティーブ・ライヒ) 2</td> <td>10. Frederic Rzewski (フレデリック・ジェフスキー) 2</td> </tr> <tr> <td>3. Steve Reich (スティーブ・ライヒ) 3</td> <td>11. Erik Satie (エリック・サティ)</td> </tr> <tr> <td>4. Arvo Part (アルヴォ・ペルト) 1</td> <td>12. イギリスの実験音楽家達 1</td> </tr> <tr> <td>5. Arvo Part (アルヴォ・ペルト) 2</td> <td>13. イギリスの実験音楽家達 2</td> </tr> <tr> <td>6. John Cage (ジョン・ケージ) 1</td> <td>14. イギリスの実験音楽家達 3</td> </tr> <tr> <td>7. John Cage (ジョン・ケージ) 2</td> <td>15. 各学生が関心を持った音楽家について、研究発表をする</td> </tr> <tr> <td>8. John Cage (ジョン・ケージ) 3</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況、授業態度及び研究発表</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 英和辞典を毎回持参して下さい</p> <p><b>【教科書】</b> 指定なし</p> <p><b>【参考書等】</b> 庄野進『聴取の詩学』</p>							1. Steve Reich (スティーブ・ライヒ) 1	9. Frederic Rzewski (フレデリック・ジェフスキー) 1	2. Steve Reich (スティーブ・ライヒ) 2	10. Frederic Rzewski (フレデリック・ジェフスキー) 2	3. Steve Reich (スティーブ・ライヒ) 3	11. Erik Satie (エリック・サティ)	4. Arvo Part (アルヴォ・ペルト) 1	12. イギリスの実験音楽家達 1	5. Arvo Part (アルヴォ・ペルト) 2	13. イギリスの実験音楽家達 2	6. John Cage (ジョン・ケージ) 1	14. イギリスの実験音楽家達 3	7. John Cage (ジョン・ケージ) 2	15. 各学生が関心を持った音楽家について、研究発表をする	8. John Cage (ジョン・ケージ) 3	
1. Steve Reich (スティーブ・ライヒ) 1	9. Frederic Rzewski (フレデリック・ジェフスキー) 1																					
2. Steve Reich (スティーブ・ライヒ) 2	10. Frederic Rzewski (フレデリック・ジェフスキー) 2																					
3. Steve Reich (スティーブ・ライヒ) 3	11. Erik Satie (エリック・サティ)																					
4. Arvo Part (アルヴォ・ペルト) 1	12. イギリスの実験音楽家達 1																					
5. Arvo Part (アルヴォ・ペルト) 2	13. イギリスの実験音楽家達 2																					
6. John Cage (ジョン・ケージ) 1	14. イギリスの実験音楽家達 3																					
7. John Cage (ジョン・ケージ) 2	15. 各学生が関心を持った音楽家について、研究発表をする																					
8. John Cage (ジョン・ケージ) 3																						

教科 No.	6a092	授業科目	音楽学演習 b 1・b 2		単位数	各1単位
担当教員	音楽学担当教員				開講学期	前期・後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	音楽学専攻2回生		
<p><b>【授業目標】</b> 「音楽学特別演習」の聴講</p> <p><b>【授業概要】</b> 「音楽学特別演習」（音楽学専攻3回生以上のための卒業研究に関わる演習）に、音楽学専攻2回生聴講を許し、学生の自主的な勉強の手助けをする。</p> <p><b>【評価方法】</b> 出席点、及び自分の研究その他について自主的に提出するレポート。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 受講者は、日によって別の教員の演習に参加してもよいが、必ず出席のサインもしくは捺印をもらうこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 各教員によって異なるので、「音楽学特別演習」のシラバスを参照すること。</p> <p><b>【参考書等】</b> 各教員によって異なるので、「音楽学特別演習」のシラバスを参照すること。</p> <p>※備考 3回生以上の「音楽学特別演習」の正式履修につながる予備的段階の授業である。各教員によって異なるので音楽学特別演習のシラバスを参照すること。</p>						

教科 No.	6a093	授業科目	音楽学演習 c 1 : コンピュータ・ミュージック	単位数	1単位																
担当教員	丸岡加奈子 (非常勤)			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2 回生以上 (音楽学専攻は 1 回生以上)																	
<p><b>【授業目標】</b> コンピュータを新しい芸術表現の道具として捉え、コンピュータを使った音楽制作に親しむ。</p> <p><b>【授業概要】</b> コンピュータ音楽の技術のうち、MIDI (Musical Instrument Digital Interface) の基礎と応用について学ぶ。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. Macintosh 基本操作</td><td style="text-align: right;">9. "</td></tr> <tr><td>2. MIDI 概論, Logic 基本操作 1</td><td style="text-align: right;">10. "</td></tr> <tr><td>3. Logic 基本操作 2</td><td style="text-align: right;">11. "</td></tr> <tr><td>4. 制作課題 (ピアノ曲)</td><td style="text-align: right;">12. "</td></tr> <tr><td>5. 制作課題 (ポピュラー曲)</td><td style="text-align: right;">13. まとめ (作品発表会)</td></tr> <tr><td>6. 制作課題 (オーケストラ曲)</td><td style="text-align: right;">14. 予備</td></tr> <tr><td>7. "</td><td style="text-align: right;">15. 予備</td></tr> <tr><td>8. 制作課題 (自由曲) ※オリジナルが望ましい</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への参加度と提出作品によって評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 興味を持って機器に対応することが肝要である。</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>						1. Macintosh 基本操作	9. "	2. MIDI 概論, Logic 基本操作 1	10. "	3. Logic 基本操作 2	11. "	4. 制作課題 (ピアノ曲)	12. "	5. 制作課題 (ポピュラー曲)	13. まとめ (作品発表会)	6. 制作課題 (オーケストラ曲)	14. 予備	7. "	15. 予備	8. 制作課題 (自由曲) ※オリジナルが望ましい	
1. Macintosh 基本操作	9. "																				
2. MIDI 概論, Logic 基本操作 1	10. "																				
3. Logic 基本操作 2	11. "																				
4. 制作課題 (ピアノ曲)	12. "																				
5. 制作課題 (ポピュラー曲)	13. まとめ (作品発表会)																				
6. 制作課題 (オーケストラ曲)	14. 予備																				
7. "	15. 予備																				
8. 制作課題 (自由曲) ※オリジナルが望ましい																					

教科 No.	6a094	授業科目	音楽学演習 c 2 : コンピュータ・ミュージック	単位数	1単位																
担当教員	丸岡加奈子 (非常勤)			開講学期	後期																
履修条件	先修科目 : 音楽学演習 c 1		履修学年・専攻等	2 回生以上 (音楽学専攻は 1 回生以上)																	
<p><b>【授業目標】</b> コンピュータを新しい芸術表現の道具として捉え、コンピュータを使った音楽制作に親しむ。</p> <p><b>【授業概要】</b> 楽譜作成ソフト「フィナーレ」、およびハードディスク・レコーディングの基礎について学ぶ。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. ハードディスク・レコーディング基礎知識</td><td style="text-align: right;">9. 制作課題 (自由曲) ※オリジナルが望ましい</td></tr> <tr><td>2. サンプリング 1 (コンピュータに音を取り込む)</td><td style="text-align: right;">10. "</td></tr> <tr><td>3. サンプリング 2 (取り込んだ音を編集, 加工する)</td><td style="text-align: right;">11. "</td></tr> <tr><td>4. デジタル・オーディオと MIDI の統合</td><td style="text-align: right;">12. "</td></tr> <tr><td>5. フィナーレによる楽譜作成 (基本操作)</td><td style="text-align: right;">13. "</td></tr> <tr><td>6. フィナーレによる楽譜作成 (ピアノ曲)</td><td style="text-align: right;">14. まとめ (作品発表会)</td></tr> <tr><td>7. フィナーレによる楽譜作成 (オーケストラ曲)</td><td style="text-align: right;">15. 予備</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への参加度と提出作品によって評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 興味を持って機器に対応することが肝要である。</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>						1. ハードディスク・レコーディング基礎知識	9. 制作課題 (自由曲) ※オリジナルが望ましい	2. サンプリング 1 (コンピュータに音を取り込む)	10. "	3. サンプリング 2 (取り込んだ音を編集, 加工する)	11. "	4. デジタル・オーディオと MIDI の統合	12. "	5. フィナーレによる楽譜作成 (基本操作)	13. "	6. フィナーレによる楽譜作成 (ピアノ曲)	14. まとめ (作品発表会)	7. フィナーレによる楽譜作成 (オーケストラ曲)	15. 予備	8. "	
1. ハードディスク・レコーディング基礎知識	9. 制作課題 (自由曲) ※オリジナルが望ましい																				
2. サンプリング 1 (コンピュータに音を取り込む)	10. "																				
3. サンプリング 2 (取り込んだ音を編集, 加工する)	11. "																				
4. デジタル・オーディオと MIDI の統合	12. "																				
5. フィナーレによる楽譜作成 (基本操作)	13. "																				
6. フィナーレによる楽譜作成 (ピアノ曲)	14. まとめ (作品発表会)																				
7. フィナーレによる楽譜作成 (オーケストラ曲)	15. 予備																				
8. "																					

教科 No.	6a095	授業科目	音楽学演習 d 1：打楽器演奏法	単位数	1単位
担当教員	竹原美歌（非常勤）			開講学期	集中（前期）
履修条件	なし		履修学年・専攻等	作曲,指揮,管・打楽（打楽器のみ）2回生以上	
<p>【授業目標】 現代打楽器音楽の演奏法を習得するとともに、現代打楽器音楽についての知識を深める。</p> <p>【授業概要】 現代打楽器音楽演奏の実技レッスンとレクチャー。</p> <p>【評価方法】 演奏またはレポート</p> <p>【履修上の注意】 レッスン曲目について事前に十分な調査と練習を経て受講すること</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 なし</p>					

教科 No.	6a096	授業科目	音楽学演習 e 1：弦楽四重奏	単位数	1単位																
担当教員	弦楽専攻教員			開講学期	通年授業																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	弦楽専攻 2回生以上																	
<p>【授業目標】 弦楽四重奏の演奏法の基礎を学ぶ。</p> <p>【授業概要】 ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン初期作品など古典派の弦楽四重奏曲の理解と習得</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1.オリエンテーション</td><td style="text-align: right;">9. "</td></tr> <tr><td>2.グループごとのレッスン</td><td style="text-align: right;">10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td style="text-align: right;">11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td style="text-align: right;">12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td style="text-align: right;">13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td style="text-align: right;">14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td style="text-align: right;">15. "</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p>【評価方法】 1年間のレッスン受講状況により、平常点で評価する。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加する。年間に60分のレッスンを8回受講すること。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 なし</p> <p>※備考 他の科目との関連性：室内楽</p>						1.オリエンテーション	9. "	2.グループごとのレッスン	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1.オリエンテーション	9. "																				
2.グループごとのレッスン	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. "																				
7. "	15. "																				
8. "																					

教科 No.	6a097	授業科目	音楽学演習 f 1		単位数	1単位
担当教員	声楽専攻教員				開講学期	集中（後期）
履修条件	なし		履修学年・専攻等	声楽専攻1・2回生		
<p><b>【授業目標】</b> オペラ制作の現場実習を通してオペラが上演されるまでの制作過程を学び、舞台に関わるものとしての資質を養う。</p> <p><b>【授業概要】</b> 大学院オペラ公演の上演に、制作スタッフとして参加し、制作の過程を学ぶ。制作の現場で、それぞれの作業</p> <p><b>【評価方法】</b> 授業態度及び出欠</p> <p><b>【履修上の注意】</b> オペラの制作は協調性が非常に大切であるので、この点に留意すること。</p> <p><b>【教科書】</b> 指導教員の指示により、適宜選択する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 指導教員の指示により、適宜選択する。</p>						

教科 No.	6a101	授業科目	楽書講読（英語） 1		単位数	1単位																
担当教員	津崎 実（音楽研究室 4）				開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	3 回生以上（音楽学専攻は 1 回生以上）																		
<p><b>【授業目標】</b>            英文を単に日本語に訳すということではなく、英語で書かれた本から知識を得るということを目指します。つまり、実際に英語を役立てるための訓練をします。</p> <p><b>【授業概要】</b>            Music, Cognition, and Computerized Sound から第 8 章 Hearing in Time and Space を輪読していきます。履修者は毎回、一文ずつ順番に読んで、その意味内容を言うという実習タイプの授業となります。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr><td>1. 教科書を回覧し、各章の特徴の概要から、どの章を読み進めるかを投票により決定</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. 以降、担当箇所を読み上げ、意味と解釈をつけることを順次行う。</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. "</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>            基本は出席と、毎回の授業への参加・貢献度によって評価します。それを補う目的でのレポートを学期末に実施します。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>            その場で辞書を引きながら実施するのでも構いませんが、どうしても時間を要する人には「予習」を課す可能性があります。</p> <p><b>【教科書】</b>            Cook, P. R. (Es.) (2001) Music, Cognition, and Computerized Sound: An Introduction to Psychoacoustics, MIT Press, Cambridge, Massachusetts</p> <p><b>【参考書等】</b>            なし</p> <p>※備考 基本的に段落単位で担当する箇所を事前に決めておき、担当者はその段落について英文を読み上げ、日本語訳をつけることを毎回の授業の際に求められます。            上記を毎回、出席者に順に当てて実施しますので、欠席が多いと問題視されます。</p>							1. 教科書を回覧し、各章の特徴の概要から、どの章を読み進めるかを投票により決定	9. "	2. 以降、担当箇所を読み上げ、意味と解釈をつけることを順次行う。	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1. 教科書を回覧し、各章の特徴の概要から、どの章を読み進めるかを投票により決定	9. "																					
2. 以降、担当箇所を読み上げ、意味と解釈をつけることを順次行う。	10. "																					
3. "	11. "																					
4. "	12. "																					
5. "	13. "																					
6. "	14. "																					
7. "	15. "																					
8. "																						

教科 No.	6a102	授業科目	楽書講読（英語） 2		単位数	1単位																
担当教員	津崎 実（音楽研究室 4）				開講学期	後期																
履修条件	先修科目：楽書講読（英語） 1		履修学年・専攻等	3 回生以上（音楽学専攻は 1 回生以上）																		
<p><b>【授業目標】</b>            英文を単に日本語に訳すということではなく、英語で書かれた本から知識を得るということを目指します。つまり、実際に英語を役立てるための訓練をします。</p> <p><b>【授業概要】</b>            Music, Cognition, and Computerized Sound から第 10 章 Stream Segregation and Ambiguity in Audition を輪読していきます。履修者は毎回、一文ずつ順番に読んで、その意味内容を言うという実習タイプの授業となります。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr><td>1. 教科書を回覧し、各章の特徴の概要から、どの章を読み進めるかを投票により決定</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. 以降、担当箇所を読み上げ、意味と解釈をつけることを順次行う。</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. "</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>            基本は出席と、毎回の授業への参加・貢献度によって評価します。それを補う目的でのレポートを学期末に実施します。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>            その場で辞書を引きながら実施するのでも構いませんが、どうしても時間を要する人には「予習」を課す可能性があります。</p> <p><b>【教科書】</b>            Cook, P. R. (Es.) (2001) Music, Cognition, and Computerized Sound: An Introduction to Psychoacoustics, MIT Press, Cambridge, Massachusetts</p> <p><b>【参考書等】</b>            なし</p> <p>※備考 基本的に段落単位で担当する箇所を事前に決めておき、担当者はその段落について英文を読み上げ、日本語訳をつけることを毎回の授業の際に求められます。            上記を毎回、出席者に順に当てて実施しますので、欠席が多いと問題視されます。</p>							1. 教科書を回覧し、各章の特徴の概要から、どの章を読み進めるかを投票により決定	9. "	2. 以降、担当箇所を読み上げ、意味と解釈をつけることを順次行う。	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1. 教科書を回覧し、各章の特徴の概要から、どの章を読み進めるかを投票により決定	9. "																					
2. 以降、担当箇所を読み上げ、意味と解釈をつけることを順次行う。	10. "																					
3. "	11. "																					
4. "	12. "																					
5. "	13. "																					
6. "	14. "																					
7. "	15. "																					
8. "																						

教科 No.	6a103	授業科目	楽書講読（仏語） 1	単位数	1単位																
担当教員	福田清美（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	3回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 有名なフランス歌曲の詩に触れる</p> <p><b>【授業概要】</b> フォーレの（特にヴェルレーヌの詩による）歌曲の訳詩、曲のハーモニー、旋律、リズム等の関係を考える</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. Fauré 「5つのヴェニス」の歌</td> <td style="width: 50%;">9. "</td> </tr> <tr> <td>2. (これと同じ詩の他の作曲家の作品を聞く)</td> <td>10. 院「歌曲演習（仏）」で選曲された中から数曲を訳詩</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. (時差のない字幕スーパーをパワーポイントで発表)</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. Fauré 月の光</td> <td>14. 演奏（発表）会での反省</td> </tr> <tr> <td>7. Fauré 白い月</td> <td>15. 次回の準備</td> </tr> <tr> <td>8. (これと同じ詩の他の作曲家の作品を聞く)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業の出席状況により評価</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 和訳、CDを聴く、楽譜を調べる。</p> <p><b>【教科書】</b> Fauré などフランス歌曲集</p> <p><b>【参考書等】</b> 仏語辞書（発音記号付き）</p>						1. Fauré 「5つのヴェニス」の歌	9. "	2. (これと同じ詩の他の作曲家の作品を聞く)	10. 院「歌曲演習（仏）」で選曲された中から数曲を訳詩	3. "	11. (時差のない字幕スーパーをパワーポイントで発表)	4. "	12. "	5. "	13. "	6. Fauré 月の光	14. 演奏（発表）会での反省	7. Fauré 白い月	15. 次回の準備	8. (これと同じ詩の他の作曲家の作品を聞く)	
1. Fauré 「5つのヴェニス」の歌	9. "																				
2. (これと同じ詩の他の作曲家の作品を聞く)	10. 院「歌曲演習（仏）」で選曲された中から数曲を訳詩																				
3. "	11. (時差のない字幕スーパーをパワーポイントで発表)																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. Fauré 月の光	14. 演奏（発表）会での反省																				
7. Fauré 白い月	15. 次回の準備																				
8. (これと同じ詩の他の作曲家の作品を聞く)																					

教科 No.	6a104	授業科目	楽書講読（仏語） 2	単位数	1単位																
担当教員	福田清美（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：楽書講読（仏語） 1		履修学年・専攻等	3回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 有名なフランス歌曲の詩に触れる</p> <p><b>【授業概要】</b> フォーレ以外の歌曲の訳（オペラも含む）。詩と曲の関係を考える</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ボードレール (Duparc)</td> <td style="width: 50%;">9. "</td> </tr> <tr> <td>2. ボードレール (Debussy)</td> <td>10. 院「歌曲演習（仏）」で選曲された中から数曲を訳詩</td> </tr> <tr> <td>3. ボードレール (Fauré)</td> <td>11. (時差のない字幕スーパーをパワーポイントで発表)</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. 有名歌曲</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. オペラ・アリア</td> <td>14. 演奏（発表）会での反省</td> </tr> <tr> <td>7. オペラ・アンサンブル</td> <td>15. 独立した時の準備</td> </tr> <tr> <td>8. 希望曲</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業の出席状況により評価</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 和訳、CDを聴く、楽譜を調べる。</p> <p><b>【教科書】</b> コピーを使用</p> <p><b>【参考書等】</b> 仏語辞書（発音記号付き）</p>						1. ボードレール (Duparc)	9. "	2. ボードレール (Debussy)	10. 院「歌曲演習（仏）」で選曲された中から数曲を訳詩	3. ボードレール (Fauré)	11. (時差のない字幕スーパーをパワーポイントで発表)	4. "	12. "	5. 有名歌曲	13. "	6. オペラ・アリア	14. 演奏（発表）会での反省	7. オペラ・アンサンブル	15. 独立した時の準備	8. 希望曲	
1. ボードレール (Duparc)	9. "																				
2. ボードレール (Debussy)	10. 院「歌曲演習（仏）」で選曲された中から数曲を訳詩																				
3. ボードレール (Fauré)	11. (時差のない字幕スーパーをパワーポイントで発表)																				
4. "	12. "																				
5. 有名歌曲	13. "																				
6. オペラ・アリア	14. 演奏（発表）会での反省																				
7. オペラ・アンサンブル	15. 独立した時の準備																				
8. 希望曲																					

教科 No.	6a105	授業科目	楽書講読（独語）1：「読むことで世界を広げる」	単位数	1単位																
担当教員	池田晋也（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	3回生以上（音楽学専攻は2回生以上）																	
<p><b>【授業目標】</b> 1. 文章の精読を通して、ドイツ語の能力向上を図る。2. 音楽に対する見識を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> ドイツ語の文章を丁寧に読んでいく。音楽に関する短いエッセイや物語など、比較的読みやすいものから始める。必要があれば文法を解説する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。</td> <td>9. Mein Leben mit Robert Schumann</td> </tr> <tr> <td>2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。</td> <td>10. Verzweiflung mit Ravel</td> </tr> <tr> <td>3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen</td> <td>11. Lieder im Herbst</td> </tr> <tr> <td>4. Zwischen Lärm und Klang</td> <td>12. Die wahre Welt ist Musik</td> </tr> <tr> <td>5. Klavier spielen können</td> <td>13. Musikstunden</td> </tr> <tr> <td>6. Hüsteln bei Horowitz</td> <td>14. 4'33"</td> </tr> <tr> <td>7. Billie Holiday - Strange Fruit</td> <td>15. Gib mir Musik</td> </tr> <tr> <td>8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況・授業態度等をもとに評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 辞書は必ず持参すること。文法の知識があいまいな者は、各自が過去に使った教科書などの参考書を携帯すること。</p> <p><b>【教科書】</b> テキストは授業時に配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 特に指定は無いが、中～上級者向けの辞書を各自で購入しておくことが望ましい。辞書の選び方については初回授業時に説明する。</p> <p>※備考 ドイツ語7と同時開講</p>						1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。	9. Mein Leben mit Robert Schumann	2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。	10. Verzweiflung mit Ravel	3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen	11. Lieder im Herbst	4. Zwischen Lärm und Klang	12. Die wahre Welt ist Musik	5. Klavier spielen können	13. Musikstunden	6. Hüsteln bei Horowitz	14. 4'33"	7. Billie Holiday - Strange Fruit	15. Gib mir Musik	8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben	
1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。	9. Mein Leben mit Robert Schumann																				
2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。	10. Verzweiflung mit Ravel																				
3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen	11. Lieder im Herbst																				
4. Zwischen Lärm und Klang	12. Die wahre Welt ist Musik																				
5. Klavier spielen können	13. Musikstunden																				
6. Hüsteln bei Horowitz	14. 4'33"																				
7. Billie Holiday - Strange Fruit	15. Gib mir Musik																				
8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben																					

教科 No.	6a106	授業科目	楽書講読（独語）2：「読むことで世界を広げる」	単位数	1単位																
担当教員	池田晋也（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：楽書講読（独語）1		履修学年・専攻等	3回生以上（音楽学専攻は2回生以上）																	
<p><b>【授業目標】</b> 1. 文章の精読を通して、ドイツ語の能力向上を図る。2. 音楽に対する見識を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> ドイツ語の文章を丁寧に読んでいく。音楽に関する短いエッセイや物語など、比較的読みやすいものから始める。必要があれば文法を解説する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。</td> <td>9. Mein Leben mit Robert Schumann</td> </tr> <tr> <td>2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。</td> <td>10. Verzweiflung mit Ravel</td> </tr> <tr> <td>3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen</td> <td>11. Lieder im Herbst</td> </tr> <tr> <td>4. Zwischen Lärm und Klang</td> <td>12. Die wahre Welt ist Musik</td> </tr> <tr> <td>5. Klavier spielen können</td> <td>13. Musikstunden</td> </tr> <tr> <td>6. Hüsteln bei Horowitz</td> <td>14. 4'33"</td> </tr> <tr> <td>7. Billie Holiday - Strange Fruit</td> <td>15. Gib mir Musik</td> </tr> <tr> <td>8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況・授業態度等をもとに評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 辞書は必ず持参すること。文法の知識があいまいな者は、各自が過去に使った教科書などの参考書を携帯すること。</p> <p><b>【教科書】</b> テキストは授業時に配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 特に指定は無いが、中～上級者向けの辞書を各自で購入しておくことが望ましい。辞書の選び方については初回授業時に説明する。</p> <p>※備考 ドイツ語8と同時開講</p>						1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。	9. Mein Leben mit Robert Schumann	2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。	10. Verzweiflung mit Ravel	3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen	11. Lieder im Herbst	4. Zwischen Lärm und Klang	12. Die wahre Welt ist Musik	5. Klavier spielen können	13. Musikstunden	6. Hüsteln bei Horowitz	14. 4'33"	7. Billie Holiday - Strange Fruit	15. Gib mir Musik	8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben	
1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。	9. Mein Leben mit Robert Schumann																				
2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。	10. Verzweiflung mit Ravel																				
3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen	11. Lieder im Herbst																				
4. Zwischen Lärm und Klang	12. Die wahre Welt ist Musik																				
5. Klavier spielen können	13. Musikstunden																				
6. Hüsteln bei Horowitz	14. 4'33"																				
7. Billie Holiday - Strange Fruit	15. Gib mir Musik																				
8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben																					

教科 No.	6a107	授業科目	楽書講読（伊語）1：RECITAZIONE OPERISTICA	単位数	1単位																
担当教員	Mauro De Paolis マウロ デ・パオリス（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	3回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 発語演習とブレスの関係が正しい歌のスタイルをグレードアップ</p> <p><b>【授業概要】</b> アクセント、イントネーション、読み方、訳し方、演技のジェスチャー全体の動きと、セリフの関係を有名なオペラのアリア又は台本の部分、ビデオを使って授業を行っていききたいと思います。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. MUSICA BAROCCA</td> <td style="width: 50%;">9. ROSSINI</td> </tr> <tr> <td>2. MUSICA BAROCCA</td> <td>10. DONIZETTI</td> </tr> <tr> <td>3. MOZART</td> <td>11. BELLINI</td> </tr> <tr> <td>4. MOZART</td> <td>12. Etc</td> </tr> <tr> <td>5. MOZART</td> <td>13. 予備</td> </tr> <tr> <td>6. MOZART</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. ROSSINI</td> <td>15. "</td> </tr> <tr> <td>8. ROSSINI</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への出席と、全体の授業を見ながら評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加しましょう。</p> <p><b>【教科書】</b> 特に指定しない。</p> <p><b>【参考書等】</b> オペラ台本とビデオ</p> <p>※備考 音楽の授業で扱われている曲との関係を持ちたい。</p>						1. MUSICA BAROCCA	9. ROSSINI	2. MUSICA BAROCCA	10. DONIZETTI	3. MOZART	11. BELLINI	4. MOZART	12. Etc	5. MOZART	13. 予備	6. MOZART	14. "	7. ROSSINI	15. "	8. ROSSINI	
1. MUSICA BAROCCA	9. ROSSINI																				
2. MUSICA BAROCCA	10. DONIZETTI																				
3. MOZART	11. BELLINI																				
4. MOZART	12. Etc																				
5. MOZART	13. 予備																				
6. MOZART	14. "																				
7. ROSSINI	15. "																				
8. ROSSINI																					

教科 No.	6a108	授業科目	楽書講読（伊語）2：RECITAZIONE OPERISTICA	単位数	1単位																
担当教員	Mauro De Paolis マウロ デ・パオリス（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：楽書講読（伊語）1		履修学年・専攻等	3回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 発語演習とブレスの関係が正しい歌のスタイルをグレードアップ</p> <p><b>【授業概要】</b> アクセント、イントネーション、読み方、訳し方、演技のジェスチャー全体の動きと、セリフの関係を有名なオペラのアリア又は台本の部分、ビデオを使って授業を行っていききたいと思います。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. VERDI</td> <td style="width: 50%;">9. PUCCINI</td> </tr> <tr> <td>2. VERDI</td> <td>10. PUCCINI</td> </tr> <tr> <td>3. VERDI</td> <td>11. LEONCAVALLO</td> </tr> <tr> <td>4. VERDI</td> <td>12. MASCAGNI</td> </tr> <tr> <td>5. VERDI</td> <td>13. Etc.</td> </tr> <tr> <td>6. PUCCINI</td> <td>14. 予備</td> </tr> <tr> <td>7. PUCCINI</td> <td>15. "</td> </tr> <tr> <td>8. PUCCINI</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への出席と、全体の授業を見ながら評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加しましょう。</p> <p><b>【教科書】</b> 特に指定しない。</p> <p><b>【参考書等】</b> オペラ台本とビデオ</p> <p>※備考 音楽の授業で扱われている曲との関係を持ちたい。</p>						1. VERDI	9. PUCCINI	2. VERDI	10. PUCCINI	3. VERDI	11. LEONCAVALLO	4. VERDI	12. MASCAGNI	5. VERDI	13. Etc.	6. PUCCINI	14. 予備	7. PUCCINI	15. "	8. PUCCINI	
1. VERDI	9. PUCCINI																				
2. VERDI	10. PUCCINI																				
3. VERDI	11. LEONCAVALLO																				
4. VERDI	12. MASCAGNI																				
5. VERDI	13. Etc.																				
6. PUCCINI	14. 予備																				
7. PUCCINI	15. "																				
8. PUCCINI																					

教科 No.	6a109	授業科目	原典研究（英語） I	単位数	1単位
担当教員	山田陽一（音楽研究室3）			開講学期	前期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	音楽学専攻2回生以上	
<p><b>【授業目標】</b> 音楽に関する英語文献の読解能力を高める。</p> <p><b>【授業概要】</b> Nicholas Cook, Music: A Very Short Introduction (1998) を通読する。</p> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況と平常点による。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加すること。</p> <p><b>【教科書】</b> 授業開始時にコピーを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業中に指示する。</p>					

教科 No.	6a110	授業科目	原典研究（英語） II a	単位数	1単位
担当教員	山田陽一（音楽研究室3）			開講学期	後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	音楽学専攻2回生以上	
<p><b>【授業目標】</b> 音楽に関する英語文献の読解能力を高める。</p> <p><b>【授業概要】</b> Nicholas Cook, Music: A Very Short Introduction (1998) を通読する。</p> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況と平常点による。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加すること。</p> <p><b>【教科書】</b> 授業開始時にコピーを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業中に指示する。</p>					

教科 No.	6a111	授業科目	原典研究（英語）Ⅱ b	単位数	1単位																
担当教員	柿沼敏江（音楽研究室1）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：英語（音楽学）1イ・2イ		履修学年・専攻等	音楽学専攻2回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 音楽の専門書の講読に慣れる。</p> <p><b>【授業概要】</b> 英語（音楽学）1イに引き続き、音楽学専攻に必要な音楽学の基礎的な文献を講読する。音楽書の専門的な記述に慣れるとともに、書かれている内容をふかく理解する力を養うことを目的とする。より高度な内容の文献を読むことにより、専門的な研究のための準備を行なう。内容に合わせて音楽を聴くこともある。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr><td>1. 導入</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. 本の中から一章を選び、輪読していく。</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. 以下、学生の進度に合わせて進行する。</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. まとめ</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席と授業参加、およびレポートで評価。出席を重視。3分の1以上欠席した者には単位を認めない。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 遅刻、欠席をしないこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 未定</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業で指示する</p> <p>※備考 「英語（音楽学）2イ」及び「英語（音楽学・柿沼）4」と同時開講</p>						1. 導入	9. "	2. 本の中から一章を選び、輪読していく。	10. "	3. 以下、学生の進度に合わせて進行する。	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. まとめ	8. "	
1. 導入	9. "																				
2. 本の中から一章を選び、輪読していく。	10. "																				
3. 以下、学生の進度に合わせて進行する。	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. "																				
7. "	15. まとめ																				
8. "																					

教科 No.	6a112	授業科目	原典研究（独語）Ⅰ・Ⅱ：「正確に読む」	単位数	各1単位
担当教員	池田晋也（非常勤）			開講学期	前期・後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	音楽学専攻2回生以上	
<p><b>【授業目標】</b> 1. 音楽に関するドイツ語文献の精読を通して、文法を復習する。2. ドイツ語の構文に慣れ、文脈を追って読む力を養う。3. 論文及び和訳の技術を身につける。4 専門的な語彙力を高めるとともに、音楽に対する見識を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> テキストに関しては、まずはこちらで用意した幾つかの候補から選択する予定であるが、受講者の傾向に応じて変更することも考えられる。授業では、できるだけ多くの文章を的確な日本語に訳すことを試み、必要であれば文法的な説明も行う。単に文章の意味を追うだけでなく、音楽について活発に議論がなされる場となることを願っている。</p> <p><b>【授業内容】</b> 以下にテキストの候補を挙げておく。 Werner Faulstich(Hg.): Die Kultur der 20er Jahre. München 2008 Wolfram Knauer(Hg.): Jazz und Gesellschaft. Sozialgeschichtliche Aspekte des Jazz. Darmstadt 2002 Giserher Schubert(Hg.): Französische und deutsche Musik im 20. Jahrhundert. Mainz 2001</p> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況・授業態度等をもとに評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 辞書は必ず持参すること。文法の知識があいまいな者は、各自が過去に使った教科書などの参考書を携帯すること。</p> <p><b>【教科書】</b> テキストは授業時にプリントで配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 特に指定は無いが、中～上級者向けの辞書を各自で購入しておくことが望ましい。辞書の選び方については初回授業時に説明する。</p>					

教科 No.	6a113	授業科目	音楽学実習 a 1：雅楽	単位数	1単位																
担当教員	中川久公（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 平安時代に完成された雅楽の時代背景を考察し、その上で雅楽の奏法を学ぶ。</p> <p><b>【授業概要】</b> 雅楽初級者の為の実習。雅楽は管・絃・打楽器からなるアンサンブルであるが、本実習では箏の演奏に取り組む。平調音取。越天楽（早四拍子）五常楽急（早八拍子）の順でマスターする。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 雅楽概説 (1)</td> <td>9. 越天楽の練習 3</td> </tr> <tr> <td>2. 平調音取の練習 1</td> <td>10. 越天楽の練習 4</td> </tr> <tr> <td>3. 平調音取の練習 2</td> <td>11. 五常楽の練習 1</td> </tr> <tr> <td>4. 平調音取の練習 3</td> <td>12. 五常楽の練習 2</td> </tr> <tr> <td>5. 平調音取の練習 4</td> <td>13. 五常楽の練習 3</td> </tr> <tr> <td>6. 雅楽概説 (2)</td> <td>14. 雅楽総論</td> </tr> <tr> <td>7. 越天楽の練習 1</td> <td>15. 予備</td> </tr> <tr> <td>8. 越天楽の練習 2</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況・受講態度等による評価 20% 習得度の試験（実技）とレポート 80%</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 通年履修が望ましいが、教職の必修としては前期のみでよい。</p> <p><b>【教科書】</b> 雅楽（箏）の楽譜（授業中にコピー配布）</p> <p><b>【参考書等】</b> 箏のプラスチックの練習用管</p>						1. 雅楽概説 (1)	9. 越天楽の練習 3	2. 平調音取の練習 1	10. 越天楽の練習 4	3. 平調音取の練習 2	11. 五常楽の練習 1	4. 平調音取の練習 3	12. 五常楽の練習 2	5. 平調音取の練習 4	13. 五常楽の練習 3	6. 雅楽概説 (2)	14. 雅楽総論	7. 越天楽の練習 1	15. 予備	8. 越天楽の練習 2	
1. 雅楽概説 (1)	9. 越天楽の練習 3																				
2. 平調音取の練習 1	10. 越天楽の練習 4																				
3. 平調音取の練習 2	11. 五常楽の練習 1																				
4. 平調音取の練習 3	12. 五常楽の練習 2																				
5. 平調音取の練習 4	13. 五常楽の練習 3																				
6. 雅楽概説 (2)	14. 雅楽総論																				
7. 越天楽の練習 1	15. 予備																				
8. 越天楽の練習 2																					

教科 No.	6a114	授業科目	音楽学実習 a 2：雅楽	単位数	1単位																
担当教員	中川久公（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：音楽学実習 a 1		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 平安時代に完成された雅楽の時代背景を考察し、その上で雅楽の奏法を学ぶ。雅楽が成立した当時の日本人の心性。習俗性を考察、検証する。</p> <p><b>【授業概要】</b> a 1 に引き続き箏の習得を行う。曲目は納曽利（高麗楽）御神楽（大和楽）である。その上で雅楽がいかんして発展し成立してきたかを学ぶ。本講義ではとくに我国の芸能全ての源流である雅楽を媒介に、この伝統音楽がいかんして育まれてきたものであるかその心性・習俗性を考察し、日本の伝統と芸術がいかんして成立したかを検証する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 雅楽概説 (1)</td> <td>9. 御神楽の練習と講義 2</td> </tr> <tr> <td>2. 唱歌練習</td> <td>10. 御神楽の練習と講義 3</td> </tr> <tr> <td>3. 納曽利の練習と講義 1</td> <td>11. 御神楽の練習と講義 4</td> </tr> <tr> <td>4. 納曽利の練習と講義 2</td> <td>12. 雅楽観賞 2</td> </tr> <tr> <td>5. 納曽利の練習と講義 3</td> <td>13. 雅楽総論 1</td> </tr> <tr> <td>6. 納曽利の練習と講義 4</td> <td>14. 雅楽総論 2</td> </tr> <tr> <td>7. 雅楽の鑑賞 1</td> <td>15. 予備</td> </tr> <tr> <td>8. 御神楽の練習と講義 1</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況・受講態度等による評価 20% 習得度の試験（実技）とレポート 80%</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>【教科書】</b> 雅楽（箏）の楽譜（授業中にコピー配布）</p> <p><b>【参考書等】</b> 箏のプラスチックの練習用管</p>						1. 雅楽概説 (1)	9. 御神楽の練習と講義 2	2. 唱歌練習	10. 御神楽の練習と講義 3	3. 納曽利の練習と講義 1	11. 御神楽の練習と講義 4	4. 納曽利の練習と講義 2	12. 雅楽観賞 2	5. 納曽利の練習と講義 3	13. 雅楽総論 1	6. 納曽利の練習と講義 4	14. 雅楽総論 2	7. 雅楽の鑑賞 1	15. 予備	8. 御神楽の練習と講義 1	
1. 雅楽概説 (1)	9. 御神楽の練習と講義 2																				
2. 唱歌練習	10. 御神楽の練習と講義 3																				
3. 納曽利の練習と講義 1	11. 御神楽の練習と講義 4																				
4. 納曽利の練習と講義 2	12. 雅楽観賞 2																				
5. 納曽利の練習と講義 3	13. 雅楽総論 1																				
6. 納曽利の練習と講義 4	14. 雅楽総論 2																				
7. 雅楽の鑑賞 1	15. 予備																				
8. 御神楽の練習と講義 1																					

教科 No.	6a115	授業科目	音楽学実習 b 1：古楽演奏	単位数	1単位																
担当教員	秋山 滋（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p>【授業目標】 リコーダーによる古楽演奏</p> <p>【授業概要】 西洋音楽史上、最も重要な役割を果たし、その基礎が築かれたバロック時代の楽曲を取り上げ、当時に記された文献や譜面を通して実際にその演奏の方法を研究し実践を試みる。当時の花形楽器であったリコーダーを用いた合奏を通し、様々な様式の楽曲を体験する。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. イタリア様式の演奏Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>2. 古楽演奏とは</td> <td>10. ドイツ様式の演奏Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>3. 楽譜の歴史と変遷Ⅰ</td> <td>11. ドイツ様式の演奏Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>4. 楽譜の歴史と変遷Ⅱ</td> <td>12. フランス様式の演奏Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>5. 古楽器概論Ⅰ</td> <td>13. フランス様式の演奏Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>6. 古楽器概論Ⅱ</td> <td>14. その他の様式Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>7. 形式について</td> <td>15. その他の様式Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>8. イタリア様式の演奏Ⅰ</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況、受講態度により評価</p> <p>【履修上の注意】 原則としてリコーダーの運指を理解していて、リコーダー演奏の経験があることが望ましい。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 楽譜、資料を配布する。バロック式（ジャーマン式は不可）運指によるソプラノ、アルトの各リコーダーを各自用意すること。</p>						1. ガイダンス	9. イタリア様式の演奏Ⅱ	2. 古楽演奏とは	10. ドイツ様式の演奏Ⅰ	3. 楽譜の歴史と変遷Ⅰ	11. ドイツ様式の演奏Ⅱ	4. 楽譜の歴史と変遷Ⅱ	12. フランス様式の演奏Ⅰ	5. 古楽器概論Ⅰ	13. フランス様式の演奏Ⅱ	6. 古楽器概論Ⅱ	14. その他の様式Ⅰ	7. 形式について	15. その他の様式Ⅱ	8. イタリア様式の演奏Ⅰ	
1. ガイダンス	9. イタリア様式の演奏Ⅱ																				
2. 古楽演奏とは	10. ドイツ様式の演奏Ⅰ																				
3. 楽譜の歴史と変遷Ⅰ	11. ドイツ様式の演奏Ⅱ																				
4. 楽譜の歴史と変遷Ⅱ	12. フランス様式の演奏Ⅰ																				
5. 古楽器概論Ⅰ	13. フランス様式の演奏Ⅱ																				
6. 古楽器概論Ⅱ	14. その他の様式Ⅰ																				
7. 形式について	15. その他の様式Ⅱ																				
8. イタリア様式の演奏Ⅰ																					

教科 No.	6a116	授業科目	音楽学実習 b 2：古楽演奏	単位数	1単位																
担当教員	秋山 滋（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：音楽学実習 b 1（古楽演奏）		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p>【授業目標】 リコーダーによる古楽演奏</p> <p>【授業概要】 西洋音楽史上、最も重要な役割を果たし、その基礎が築かれたバロック時代の楽曲を取り上げ、当時に記された文献や譜面を通して実際にその演奏の方法を研究し実践を試みる。当時の花形楽器であったリコーダーを用いた合奏を通し、様々な様式の楽曲を体験する。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 様々な形式、形態による演奏</td> </tr> <tr> <td>2. 様々な形式、形態による演奏</td> <td>10. 様々な形式、形態による演奏</td> </tr> <tr> <td>3. 様々な形式、形態による演奏</td> <td>11. 様々な形式、形態による演奏</td> </tr> <tr> <td>4. 様々な形式、形態による演奏</td> <td>12. 様々な形式、形態による演奏</td> </tr> <tr> <td>5. 様々な形式、形態による演奏</td> <td>13. 様々な形式、形態による演奏</td> </tr> <tr> <td>6. 様々な形式、形態による演奏</td> <td>14. 様々な形式、形態による演奏</td> </tr> <tr> <td>7. 様々な形式、形態による演奏</td> <td>15. 様々な形式、形態による演奏</td> </tr> <tr> <td>8. 様々な形式、形態による演奏</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況、受講態度により評価</p> <p>【履修上の注意】 原則としてリコーダーの運指を理解していて、リコーダー演奏の経験があることが望ましい。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 楽譜、資料を配布する。バロック式（ジャーマン式は不可）運指によるソプラノ、アルトの各リコーダーを各自用意すること。</p>						1. ガイダンス	9. 様々な形式、形態による演奏	2. 様々な形式、形態による演奏	10. 様々な形式、形態による演奏	3. 様々な形式、形態による演奏	11. 様々な形式、形態による演奏	4. 様々な形式、形態による演奏	12. 様々な形式、形態による演奏	5. 様々な形式、形態による演奏	13. 様々な形式、形態による演奏	6. 様々な形式、形態による演奏	14. 様々な形式、形態による演奏	7. 様々な形式、形態による演奏	15. 様々な形式、形態による演奏	8. 様々な形式、形態による演奏	
1. ガイダンス	9. 様々な形式、形態による演奏																				
2. 様々な形式、形態による演奏	10. 様々な形式、形態による演奏																				
3. 様々な形式、形態による演奏	11. 様々な形式、形態による演奏																				
4. 様々な形式、形態による演奏	12. 様々な形式、形態による演奏																				
5. 様々な形式、形態による演奏	13. 様々な形式、形態による演奏																				
6. 様々な形式、形態による演奏	14. 様々な形式、形態による演奏																				
7. 様々な形式、形態による演奏	15. 様々な形式、形態による演奏																				
8. 様々な形式、形態による演奏																					

教科 No.	6a117	授業科目	音楽学実習 c 1 :バロック舞曲について, 古典舞踏実習。古楽概論。	単位数	1単位																
担当教員	平尾雅子 (非常勤)			開講学期	集中 (前期)																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> ルネサンス, バロック時代の舞曲のリズム, 性格を体得し, 実際の演奏に役だてる。古楽器演奏の知識を高める。</p> <p><b>【授業概要】</b> バヴァーヌ, ガリアルド, メヌエット, ガヴォットといった, 古典舞踊 (ルネサンス・バロック時代の宮廷舞踏) のいくつかを実際に体験して, これらの舞曲のリズム感や性格を修得する。また 16, 17, 18 世紀の主要な舞曲 (アルマンド, クーラント, サラバンド, ジーグ等) がそれぞれどのような起源を持ち, どのような経緯をへて高度に様式化されたバッハ等の組曲やパルティータに到ったかをさぐる。→備考</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 3日間の内容は次のとおり</td> <td>9. メヌエット試験</td> </tr> <tr> <td>2. ルネサンスとバロック時代の音楽および舞踏について</td> <td>10. 他の舞曲の紹介</td> </tr> <tr> <td>3. バヴァーヌ, ガリアルド, メヌエットをメインとしてさまざまな舞踏のステップを習得</td> <td>11. 古楽演奏について</td> </tr> <tr> <td>4. 古楽器および古楽演奏について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 楽器について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. バヴァーヌ, ガリアルド, メヌエットの振付</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. バロック音楽と舞踏のビデオ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 舞踏譜について</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 1. メヌエットの実践 2. レポート (主な舞曲の中から2種選び, その歴史をまとめる。)</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 3日間欠席, 遅刻のないこと</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p> <p>※備考 更にこれに関連して古楽演奏, 楽器について紹介する。(バレシューズ又はこれに準ずる底のやわらかい靴, 開脚可能な動きやすい服装を用意すること。)</p>						1. 3日間の内容は次のとおり	9. メヌエット試験	2. ルネサンスとバロック時代の音楽および舞踏について	10. 他の舞曲の紹介	3. バヴァーヌ, ガリアルド, メヌエットをメインとしてさまざまな舞踏のステップを習得	11. 古楽演奏について	4. 古楽器および古楽演奏について		5. 楽器について		6. バヴァーヌ, ガリアルド, メヌエットの振付		7. バロック音楽と舞踏のビデオ		8. 舞踏譜について	
1. 3日間の内容は次のとおり	9. メヌエット試験																				
2. ルネサンスとバロック時代の音楽および舞踏について	10. 他の舞曲の紹介																				
3. バヴァーヌ, ガリアルド, メヌエットをメインとしてさまざまな舞踏のステップを習得	11. 古楽演奏について																				
4. 古楽器および古楽演奏について																					
5. 楽器について																					
6. バヴァーヌ, ガリアルド, メヌエットの振付																					
7. バロック音楽と舞踏のビデオ																					
8. 舞踏譜について																					

教科 No.	6a118	授業科目	音楽学実習 d 1：能楽	単位数	1単位
担当教員	金剛永謹（非常勤，金剛流 2 6 世宗家）			開講学期	前期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生以上	
<p><b>【授業目標】</b> 謡曲の初習者のための実習</p> <p><b>【授業概要】</b> 能楽は、六百年の歴史を有する世界最古の音楽劇である。その音楽的要素は、謡いと呼ばれる声楽部と、能管（笛・小太鼓・太鼓）の囃子からなる。本実習では、謡いの発声等の実技、並びに音楽的構成を学び、能の総理解を深めることを目的とする。※不定期授業（前期初めに日程配布）</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 能楽の概説</li> <li>2. 謡いの概説，謡曲「狸々」の練習</li> <li>3. 謡曲「狸々」の練習（強吟，弱吟習得のため）</li> <li>4. //</li> <li>5. //</li> <li>6. 能面の解説</li> <li>7. 実技試験</li> </ol> <p><b>【評価方法】</b> 修得度の試験（実技）</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>【教科書】</b> 謡本</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p> <p>※備考 「日本音楽史Ⅰ・Ⅱ」と平行して履修すれば、より効果的である。</p>					

教科 No.	6a119	授業科目	音楽学実習 d 2：能楽	単位数	1単位
担当教員	金剛永謹（非常勤，金剛流 2 6 世宗家）			開講学期	後期
履修条件	先修科目：音楽学実習 d 1		履修学年・専攻等	1 回生以上	
<p><b>【授業目標】</b> 謡曲の初習者のための実習</p> <p><b>【授業概要】</b> d 1 に引き続き、能楽の謡曲を学ぶ。謡曲「羽衣」の練習（弱吟習得）を通して、能の音楽的構成を学ぶと共に、能の総理解を深める。※不定期授業…日程については、後期の受講登録時に周知する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 謡いの概説，謡曲「羽衣」の練習</li> <li>2. 謡曲「羽衣」の練習</li> <li>3. //</li> <li>4. //</li> <li>5. //</li> <li>6. //</li> <li>7. 実技試験</li> </ol> <p><b>【評価方法】</b> 修得度の試験（実技）</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>【教科書】</b> 謡本</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p> <p>※備考 「日本音楽史Ⅰ・Ⅱ」と平行して履修すれば、より効果的である。</p>					

教科 No.	6a120	授業科目	楽器構造論：鍵盤楽器の構造と歴史	単位数	2単位																
担当教員	稲本義信（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          鍵盤楽器の歴史の中で、先駆者たちの苦悩と伝統を知り、あらためて楽器と向かい合う。          作曲家とその当時のピアノ構造の関係を演奏の解釈に役立てる。</p> <p><b>【授業概要】</b>          ・先行鍵盤楽器の歴史と機能～クラヴィコード・ハーブシコード ・初期ピアノアクションの変換～クリストフォリアクションから、ウィーン式アクション          ・作曲家とピアノメカニクの関係～バッハ・モーツアルト・ベートーベン・ショパン</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 楽器と人間～楽器に見る人間の知恵</td> <td>9. 現代ピアノの構造及び機能 ～打弦機構＝アクションメカニズムとタッチの関係</td> </tr> <tr> <td>2. モノコード・クラヴィコードの歴史と構造。クラヴィコード体験。</td> <td>10. ペダル機構のしくみと調整。 整調・整音の概要</td> </tr> <tr> <td>3. ハーブシコードの歴史と構造。ハーブシコード体験。</td> <td>11. 実習① アクション模型を使つての調整～G P</td> </tr> <tr> <td>4. ピアノアクション誕生 ～クリストフォリアクションメカニズム</td> <td>12. 実習② アクション模型を使つての調整～U P</td> </tr> <tr> <td>5. 初期ピアノメカニズムと作曲家の関係 ～モーツアルトの手紙を読んで</td> <td>13. 演奏会場とピアノの音 ～音楽を支える音響条件とピアノの関係</td> </tr> <tr> <td>6. 近代ピアノの発達と作曲家の関係 ～ハイドン・ベートーベン・ショパン</td> <td>14. リードオルガンのしくみと構造</td> </tr> <tr> <td>7. 現代ピアノの構造及び機能 ～木材考＝響板・響棒・駒・支柱</td> <td>15. 日本のピアノの歴史と現在の鍵盤楽器事情</td> </tr> <tr> <td>8. 現代ピアノの構造及び機能 ～フレーム・弦</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          期末テスト</p> <p><b>【履修上の注意】</b>          出席を重視</p> <p><b>【教科書】</b>          特になし。各回授業にプリントを配布</p> <p><b>【参考書等】</b>          授業を通じて紹介</p> <p>※備考 京都芸大生として、鍵盤楽器の基礎知識を人に正しく伝えられるかどうかを評価する。</p>						1. 楽器と人間～楽器に見る人間の知恵	9. 現代ピアノの構造及び機能 ～打弦機構＝アクションメカニズムとタッチの関係	2. モノコード・クラヴィコードの歴史と構造。クラヴィコード体験。	10. ペダル機構のしくみと調整。 整調・整音の概要	3. ハーブシコードの歴史と構造。ハーブシコード体験。	11. 実習① アクション模型を使つての調整～G P	4. ピアノアクション誕生 ～クリストフォリアクションメカニズム	12. 実習② アクション模型を使つての調整～U P	5. 初期ピアノメカニズムと作曲家の関係 ～モーツアルトの手紙を読んで	13. 演奏会場とピアノの音 ～音楽を支える音響条件とピアノの関係	6. 近代ピアノの発達と作曲家の関係 ～ハイドン・ベートーベン・ショパン	14. リードオルガンのしくみと構造	7. 現代ピアノの構造及び機能 ～木材考＝響板・響棒・駒・支柱	15. 日本のピアノの歴史と現在の鍵盤楽器事情	8. 現代ピアノの構造及び機能 ～フレーム・弦	
1. 楽器と人間～楽器に見る人間の知恵	9. 現代ピアノの構造及び機能 ～打弦機構＝アクションメカニズムとタッチの関係																				
2. モノコード・クラヴィコードの歴史と構造。クラヴィコード体験。	10. ペダル機構のしくみと調整。 整調・整音の概要																				
3. ハーブシコードの歴史と構造。ハーブシコード体験。	11. 実習① アクション模型を使つての調整～G P																				
4. ピアノアクション誕生 ～クリストフォリアクションメカニズム	12. 実習② アクション模型を使つての調整～U P																				
5. 初期ピアノメカニズムと作曲家の関係 ～モーツアルトの手紙を読んで	13. 演奏会場とピアノの音 ～音楽を支える音響条件とピアノの関係																				
6. 近代ピアノの発達と作曲家の関係 ～ハイドン・ベートーベン・ショパン	14. リードオルガンのしくみと構造																				
7. 現代ピアノの構造及び機能 ～木材考＝響板・響棒・駒・支柱	15. 日本のピアノの歴史と現在の鍵盤楽器事情																				
8. 現代ピアノの構造及び機能 ～フレーム・弦																					

教科 No.	6a121	授業科目	調律論：音階の発見から平均律まで	単位数	2単位																
担当教員	稲本義信（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          古代ギリシャから西欧の音律の変換をたどることによって作曲家との関係を知る。          1 2 等分平均律の長所・短所を熟知しバランスの良い調律が聞き分けられる。</p> <p><b>【授業概要】</b>          ・ピタゴラス音律と純正調のしくみと実際。 ・不等分平均律(キルンベルガー・ヴェルクマイスター)のしくみと実際。 ・1 2 等分平均律のしくみと実際。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 音律概論 ～音階の発見 絶対音感とは？</td> <td>9. 1 2 等分平均律 ～性質と唸り。 Inharmonicity (不協和性) の概要。</td> </tr> <tr> <td>2. 古代中国から古代ギリシャの音律 ～損益法とピタゴラス数比論、テトラコード</td> <td>10. 1 2 等分平均律調律の実際 ～唸り・倍音の聞き取り方。</td> </tr> <tr> <td>3. 純正律 ～誕生の背景としくみ。</td> <td>11. これからの音律 ～平均律の改良・純正調の見直し</td> </tr> <tr> <td>4. ピタゴラス調律と純正調律の実際。</td> <td>12. さまざまな楽器の調律 ～リードオルガン・パイプオルガン etc</td> </tr> <tr> <td>5. 中全音律 ～アーロンの発見から、様々なミントーン調律のしくみ。</td> <td>13. ハーブシコードを使つて実習授業。調律法による聴き比べ。</td> </tr> <tr> <td>6. 不等分平均律 ～キルンベルガー・ヴェルクマイスターの調律法。</td> <td>14. ハーブシコードを使つて実習授業 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. ミントーン調律と、ウェル・テンバメント調律の実際</td> <td>15. 調律論総まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 1 2 等分平均律 ～誕生の背景・しくみ・近代音楽との関係。</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          期末テスト</p> <p><b>【履修上の注意】</b>          出席を重視</p> <p><b>【教科書】</b>          特になし。 各回授業にプリントを配布</p> <p><b>【参考書等】</b>          授業を通じて紹介</p>						1. 音律概論 ～音階の発見 絶対音感とは？	9. 1 2 等分平均律 ～性質と唸り。 Inharmonicity (不協和性) の概要。	2. 古代中国から古代ギリシャの音律 ～損益法とピタゴラス数比論、テトラコード	10. 1 2 等分平均律調律の実際 ～唸り・倍音の聞き取り方。	3. 純正律 ～誕生の背景としくみ。	11. これからの音律 ～平均律の改良・純正調の見直し	4. ピタゴラス調律と純正調律の実際。	12. さまざまな楽器の調律 ～リードオルガン・パイプオルガン etc	5. 中全音律 ～アーロンの発見から、様々なミントーン調律のしくみ。	13. ハーブシコードを使つて実習授業。調律法による聴き比べ。	6. 不等分平均律 ～キルンベルガー・ヴェルクマイスターの調律法。	14. ハーブシコードを使つて実習授業 (2)	7. ミントーン調律と、ウェル・テンバメント調律の実際	15. 調律論総まとめ	8. 1 2 等分平均律 ～誕生の背景・しくみ・近代音楽との関係。	
1. 音律概論 ～音階の発見 絶対音感とは？	9. 1 2 等分平均律 ～性質と唸り。 Inharmonicity (不協和性) の概要。																				
2. 古代中国から古代ギリシャの音律 ～損益法とピタゴラス数比論、テトラコード	10. 1 2 等分平均律調律の実際 ～唸り・倍音の聞き取り方。																				
3. 純正律 ～誕生の背景としくみ。	11. これからの音律 ～平均律の改良・純正調の見直し																				
4. ピタゴラス調律と純正調律の実際。	12. さまざまな楽器の調律 ～リードオルガン・パイプオルガン etc																				
5. 中全音律 ～アーロンの発見から、様々なミントーン調律のしくみ。	13. ハーブシコードを使つて実習授業。調律法による聴き比べ。																				
6. 不等分平均律 ～キルンベルガー・ヴェルクマイスターの調律法。	14. ハーブシコードを使つて実習授業 (2)																				
7. ミントーン調律と、ウェル・テンバメント調律の実際	15. 調律論総まとめ																				
8. 1 2 等分平均律 ～誕生の背景・しくみ・近代音楽との関係。																					

教科 No.	6a122	授業科目	音楽経営論：社会に生きる音楽家の、一つの「コモンセンス」	単位数	2単位																
担当教員	谷本 裕（非常勤）			開講学期	通年授業（集中・不定期）																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> この講義で諸君は、「音楽」と「社会」を繋ぐ様々な営みについて学ぶ。音楽に携わる者が社会で生きる上で、多様な人々とコミュニケーションを取り、豊かな関係を築くためには何が必要なの、また音楽を含む芸術文化活動を支える社会の仕組みはどんな状況にあるかを考える。</p> <p><b>【授業概要】</b> 古今のパトロンについて概観し、社会は音楽をどう支えてきたか、音楽家はそれとどう関わってきたかを知る。そして現代日本の企業が取り組む芸術文化支援活動、国や地方公共団体による文化政策の理解などを通じ、音楽を支えるシステムと実情を示したい。担当教員は大阪の音楽ホールで公演の企画・制作に携わっており、これら経営の現場の実情についても紹介する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 企業メセナについて</td> </tr> <tr> <td>2. 音楽は本当に社会に「必要」とされているか</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 現代の音楽家は、どんな視野を持ち、どんな活動に取り組むことが求められているか</td> <td>11. 文化政策について 国 ①</td> </tr> <tr> <td>4. 歴史上のパトロンと音楽家について</td> <td>12. 文化政策について 国 ②</td> </tr> <tr> <td>5. 同上</td> <td>13. 文化政策について 地方自治体</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>14. これからの音楽活動を支える、新たな仕組みを考える</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 同上</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 主に講義中に課す小レポートと、年度末試験。出席重視。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 開講日程は、初回講義までに提示する。他の授業との兼ね合いを注意深く検討のうえ、真摯に履修されたい。諸君が公演の折、聴衆に対し望むのと同様に、遅刻や私語は控えられたい。</p> <p><b>【教科書】</b> 講義に必要な題材は必要に応じ配布し、また授業中に視聴覚資料でも示す。</p> <p><b>【参考書等】</b> 同上</p> <p>※備考 次年度は、公演の企画・制作を実践する演習がカリキュラムに組まれる見込み。この演習に臨む者は音楽経営論を履修していることが望ましい。</p> <p>諸君は、「個性」を重んじる芸術の世界に生きようとしている。小レポートなどの作成にあたっては、日頃から社会に目を開いて情報を集め、読書や人との触れ合いを通して知見を養い、同時に自らの考えを真摯に深めるよう努めた上、誇りをもって「自説」を記されたい。</p>						1. ガイダンス	9. 企業メセナについて	2. 音楽は本当に社会に「必要」とされているか	10. 同上	3. 現代の音楽家は、どんな視野を持ち、どんな活動に取り組むことが求められているか	11. 文化政策について 国 ①	4. 歴史上のパトロンと音楽家について	12. 文化政策について 国 ②	5. 同上	13. 文化政策について 地方自治体	6. 同上	14. これからの音楽活動を支える、新たな仕組みを考える	7. 同上	15. まとめ	8. 同上	
1. ガイダンス	9. 企業メセナについて																				
2. 音楽は本当に社会に「必要」とされているか	10. 同上																				
3. 現代の音楽家は、どんな視野を持ち、どんな活動に取り組むことが求められているか	11. 文化政策について 国 ①																				
4. 歴史上のパトロンと音楽家について	12. 文化政策について 国 ②																				
5. 同上	13. 文化政策について 地方自治体																				
6. 同上	14. これからの音楽活動を支える、新たな仕組みを考える																				
7. 同上	15. まとめ																				
8. 同上																					

教科 No.	6a123	授業科目	ポピュラー音楽論	単位数	2単位
担当教員	(休講)			開講学期	前期または後期
履修条件			履修学年・専攻等	1回生以上	
<h2 style="margin: 0;">今年度休講</h2>					

教科 No.	6a124	授業科目	音楽療法：理論と実際～基礎編～	単位数	2単位																
担当教員	石村真紀（非常勤）			開講学期	集中（前期）																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																	
<p>【授業目標】 音楽療法とは何かを理解する。</p> <p>【授業概要】 音楽療法の基礎的知識や臨床理論について、実際の映像からの解説をまじえつつ講義を行う。積極的な意見交換ができることを期待する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 音楽の心理的・社会的作用</td> <td>9. ②発達障害（自閉症）</td> </tr> <tr> <td>2. 音楽療法の歴史の変遷</td> <td>10. ③発達障害（PDD全般）</td> </tr> <tr> <td>3. 音楽療法の世界の動向、現状、実践領域</td> <td>11. ④身体障害（脳性まひ・失語症）</td> </tr> <tr> <td>4. 子供の成長と音楽Ⅰ</td> <td>12. ⑤臍・不安神経症</td> </tr> <tr> <td>5. 子供の成長と音楽Ⅱ</td> <td>13. ⑥記憶のメカニズムと認知症（脳血管障害）</td> </tr> <tr> <td>6. 音楽療法士の資質、治療観</td> <td>14. ⑦アルツハイマー型認知症など</td> </tr> <tr> <td>7. 音楽療法の方法論、治療構造－即興音楽・即興的対応を中心に－</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 対象者についての理解・音楽療法の実際 ①知的障害</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席、授業への参加度、試験による総合評価ではあるが、試験を受けなかったものは失格とする</p> <p>【履修上の注意】 全日程（3日間）出席できる者に限る。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 適宜指示</p>						1. 音楽の心理的・社会的作用	9. ②発達障害（自閉症）	2. 音楽療法の歴史の変遷	10. ③発達障害（PDD全般）	3. 音楽療法の世界の動向、現状、実践領域	11. ④身体障害（脳性まひ・失語症）	4. 子供の成長と音楽Ⅰ	12. ⑤臍・不安神経症	5. 子供の成長と音楽Ⅱ	13. ⑥記憶のメカニズムと認知症（脳血管障害）	6. 音楽療法士の資質、治療観	14. ⑦アルツハイマー型認知症など	7. 音楽療法の方法論、治療構造－即興音楽・即興的対応を中心に－	15. まとめ	8. 対象者についての理解・音楽療法の実際 ①知的障害	
1. 音楽の心理的・社会的作用	9. ②発達障害（自閉症）																				
2. 音楽療法の歴史の変遷	10. ③発達障害（PDD全般）																				
3. 音楽療法の世界の動向、現状、実践領域	11. ④身体障害（脳性まひ・失語症）																				
4. 子供の成長と音楽Ⅰ	12. ⑤臍・不安神経症																				
5. 子供の成長と音楽Ⅱ	13. ⑥記憶のメカニズムと認知症（脳血管障害）																				
6. 音楽療法士の資質、治療観	14. ⑦アルツハイマー型認知症など																				
7. 音楽療法の方法論、治療構造－即興音楽・即興的対応を中心に－	15. まとめ																				
8. 対象者についての理解・音楽療法の実際 ①知的障害																					

教科 No.	6a125	授業科目	音楽科教育法Ⅳ	単位数	2単位																
担当教員	坪能由紀子（非常勤）			開講学期	集中（前期）																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生以上																	
<p>【授業目標】 学校教育、社会教育のいずれにおいてもクリエイティブな音楽活動をリードできる能力を身につけること。</p> <p>【授業概要】 音楽科教育法Ⅰ、Ⅱで得た知見をもとに、中学校や高等学校の音楽授業、または社会教育における音楽の指導者としての資質を養う。授業は主にワークショップ形式で行うが、その他研究発表、模擬ワークショップ、演奏、討論などをともなう。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 音楽教育における創造的な活動の意味をとらえる</td> <td>9. 音楽の授業に音楽の専門性を生かす</td> </tr> <tr> <td>2. 音楽教育におけるワークショップの位置づけを知る</td> <td>10. 社会教育に音楽の専門性を生かす</td> </tr> <tr> <td>3. 音楽ゲームと即興①－手拍子、ボディ・サウンド、身のまわりのものをもとに活動する</td> <td>11. グループに分かれての作品づくり</td> </tr> <tr> <td>4. 音楽ゲームと即興②－簡単な打楽器をもとに活動する</td> <td>12. 作品の発表</td> </tr> <tr> <td>5. 音楽ゲームと即興③－専門性を生かしたアイデアを考える</td> <td>13. ワorkshop案をつくる</td> </tr> <tr> <td>6. 創造的な活動の実際①－小学校、中学校の授業を見る</td> <td>14. ワorkshop案をもとにして、活動する</td> </tr> <tr> <td>7. 創造的な活動の実際②－大学教育と社会教育を見る</td> <td>15. これからのアウトリーチ活動、コミュニティ・ミュージックのあり方を俯瞰する</td> </tr> <tr> <td>8. 創造的な活動の実際③－外国の事例を見る</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席、レポート、授業への参加などで総合的に判断する。</p> <p>【履修上の注意】 積極的な姿勢で授業に関わることをのぞむ。</p> <p>【教科書】 『中学校・高等学校教職課程 音楽科教育法』2009年改訂版 教育芸術社</p> <p>【参考書等】 授業内で随時紹介、または指示する。</p> <p>※備考 「音楽科教育法Ⅰ～Ⅲ」と関連性を持つ。</p>						1. 音楽教育における創造的な活動の意味をとらえる	9. 音楽の授業に音楽の専門性を生かす	2. 音楽教育におけるワークショップの位置づけを知る	10. 社会教育に音楽の専門性を生かす	3. 音楽ゲームと即興①－手拍子、ボディ・サウンド、身のまわりのものをもとに活動する	11. グループに分かれての作品づくり	4. 音楽ゲームと即興②－簡単な打楽器をもとに活動する	12. 作品の発表	5. 音楽ゲームと即興③－専門性を生かしたアイデアを考える	13. ワorkshop案をつくる	6. 創造的な活動の実際①－小学校、中学校の授業を見る	14. ワorkshop案をもとにして、活動する	7. 創造的な活動の実際②－大学教育と社会教育を見る	15. これからのアウトリーチ活動、コミュニティ・ミュージックのあり方を俯瞰する	8. 創造的な活動の実際③－外国の事例を見る	
1. 音楽教育における創造的な活動の意味をとらえる	9. 音楽の授業に音楽の専門性を生かす																				
2. 音楽教育におけるワークショップの位置づけを知る	10. 社会教育に音楽の専門性を生かす																				
3. 音楽ゲームと即興①－手拍子、ボディ・サウンド、身のまわりのものをもとに活動する	11. グループに分かれての作品づくり																				
4. 音楽ゲームと即興②－簡単な打楽器をもとに活動する	12. 作品の発表																				
5. 音楽ゲームと即興③－専門性を生かしたアイデアを考える	13. ワorkshop案をつくる																				
6. 創造的な活動の実際①－小学校、中学校の授業を見る	14. ワorkshop案をもとにして、活動する																				
7. 創造的な活動の実際②－大学教育と社会教育を見る	15. これからのアウトリーチ活動、コミュニティ・ミュージックのあり方を俯瞰する																				
8. 創造的な活動の実際③－外国の事例を見る																					